

長崎を中心とするキリシタン関連年表

キリスト教の伝来と繁栄

1549年（天文18）

イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルが日本にキリスト教を伝える

【画像 01】

《聖ザビエル像》（神戸市立博物館）

1550年（天文19）

フランシスコ・ザビエルが平戸で布教を開始する

1562年（永禄5）

大村純忠が横瀬浦（現西海市）を開港する

1563年（永禄6）

島原半島で布教が進められる

大村純忠が受洗し、初のキリシタン大名となる

【画像 02】

『日本殉教精華』所収の大村純忠像

1566年（永禄9）

ルイス・デ・アルメイダなどの宣教師が布教のため五島に招かれる

1569年（永禄12）

長崎で最初の教会トードス・オス・サントス教会（諸聖人教会）が建立される

1570年（元亀1）

大村純忠が長崎の開港を取り決める

1571年（元亀2）

最初のポルトガル船が長崎に入港する

1580年（天正8）

安土と有馬（現南島原市）にセミナリオ、豊後にコレジオが設立される

大村純忠がイエズス会に長崎の六ヶ町および茂木（現長崎市）を寄進

1585年（天正13）

四人の天正遣欧少年使節がローマ教皇グレゴリウス 13 世に謁見する

【画像 03】

天正遣欧少年使節、Augsburg Neue Zeyttung（京都大学附属図書館）

キリシタンの弾圧

1587 年（天正 15）

豊臣秀吉がキリスト教の神父の追放令を発布する

【画像 04】

「伴天連追放令」（松浦史料博物館）

1588 年（天正 16）

豊臣秀吉が長崎・茂木・浦上を幕府の直轄領にする

1590 年（天正 18）

天正遣欧少年使節が帰国し、西洋の活版印刷機等を持ち帰る

1593 年（文禄 2）

フランシスコ会宣教師ペドロ・パウティスタが来日し、同会の日本における布教が始まる

1596 年（慶長 1）

浦戸でスペインのガレオン船が難破するサン・フェリペ号事件が起こる

1597 年（慶長 1）

日本二十六聖人（宣教師と一般の信徒）が処刑され殉教する

1601 年（慶長 6）

長崎の岬に設けられた日本司教区大神学校で日本人初の司祭 2 名が叙階される

1602 年（慶長 7）

ドミニコ会とアウグスチノ会の宣教師が来日する

1603 年（慶長 8）

『こんちりさんのりやく』が編纂される

【画像 05】

『今地里さん』写本（長崎歴史民俗資料館）

1605年（慶長10）

長崎代官が大村領長崎村を将軍の直轄地とし、浦上村北部を替地とする

1612年（慶長17）

岡本大八事件

幕府領内でのキリスト教の禁止命令が出される

1613年（慶長18）

伊達政宗が支倉常長を使節として遣欧する

1614年（慶長19）

全国に禁教令が発布される

1614年（慶長19）

宣教師が国外追放される（以降、宣教師の日本潜入が度々試みられる）

教会等のキリスト教関連施設が破壊される

1616年（元和2）

唐船を除く外国商船寄港地が平戸・長崎に限定される

1619年（元和5）

長崎で訴人懸賞銀制度によるキリシタン摘発が開始される

京都の大殉教（信徒52名が処刑された）

1622年（元和8）

元和の大殉教（宣教師と同宿55名が処刑された）

1623年（元和9）

江戸の大殉教（宣教師と信徒50名が処刑された）

マニラのドミニコ会・フランシスコ会・アウグスチノ会が合同で日本に潜入する

1624年（寛永1）

スペイン船の日本航渡航が禁止される

1626年（寛永3）

長崎奉行水野河内守守信が長崎住民に棄教を命令する

1627年（寛永4）

島原半島の領主松倉重政が雲仙地獄でのキリシタンの拷問を開始する

1628年（寛永5）

キリスト教由来の絵を踏ませる踏絵が導入される

1629年（寛永6）～

長崎奉行竹中采女正重義が長崎のキリシタン弾圧を強化する

1633年（寛永10）

奉書船（海外貿易を許可された船）以外の船による日本の海域への侵入が禁止される。

イエズス会宣教師クリストファン・フェレイラが棄教する

1634年（寛永11）

「バスチャンの日繰り」（キリシタン暦）が編纂される

1635年（寛永12）

日本人の海外渡航と帰国が全面的に禁止される

大名と旗本（将軍の直属の家臣）は寺請制度に基づく領内の厳重な宗門改めを実施するよう命じられる

1636年（寛永13）

長崎に出島という人工島が完成し、ポルトガル人は出島に移ることを要求される

【画像06】

川原慶賀《出島図》（長崎歴史文化博物館）

1637年（寛永14）～

島原・天草一揆が勃発し、一揆軍が原城に籠城する（翌年陥落）

1638年（寛永15）

全国で訴人懸賞銀制度によるキリシタン摘発が開始される

1639年（寛永16）

ポルトガル船の来航が全面的に禁止される

1640年（寛永17）

大目付井上筑後守政重が宗門改の責任者に任ぜられる

1641年（寛永18）

オランダ東インド会社の商館が平戸から出島に移される

1642年（寛永19）

イエズスの会宣教師アントニオ・ルビノー神父が日本に潜入し、翌年マルケス神父もそれに続く

1644年（正保1）

最後の宣教師マンショ小西が京都で殉教する

1657年（明暦3）～

大村藩の大規模キリシタンの摘発「郡崩れ」で400名以上が処刑される

外海を中心に活動していた伝道士バスチャンが処刑される

1660年（万治3）～

豊後崩れ

1661年（寛文1）～

濃尾崩れ